

TUEFS歴史・地域研究セミナー

第1回 Workshop for History and Area Studies



報告 塚田 浩幸 (本学博士課程)

18世紀大西洋世界における ポカホンタスの神話化

コメント 芹生 尚子 (本学教員)

日時 7月3日(火) 17:40~ (1時間程度を予定)

場所 海外事情研究所会議室(研究講義棟 427)

申込不要 学部生歓迎

主催 海外事情研究所
共催 小田原代表科研
(15H03255)

17世紀初頭を生きたインディアンの女性ポカホンタスは、その生涯にバージニア入植者と当地のインディアンのあいだに平和友好をもたらしたために、アメリカの起源神話として広く受け入れられてきた。歴史学、文化人類学、文学、そしてジェンダーの研究者によってなされてきた先行研究は、その彼女の生涯やアメリカ建国以後におびたしくとりあげられるようになった彼女に対する表象をとりあげてきた。表象については、ポカホンタスが象徴する人種や性別の従属性が指摘されてきた。しかしながら、18世紀に最初の兆候が見られるようになったポカホンタスの神話化の過程についての検討はほとんどなされてこなかった。

17世紀後半にはすでに、本国イングランドで出版された歴史書でポカホンタスに特別な位置づけが与えられていた。その後においても、バージニア植民地住人の書いた歴史書よりは、イングランドの住人の書いた歴史書においてポカホンタスへの注目が続いた。また、アメリカ独立後に出版されたヨーロッパ人のアメリカ旅行記は、現地バージニアの歴史上の興味深いエピソードとしてポカホンタスを取りあげるにより、ポカホンタスが歴史上の代表的エピソードであることが確認されるとともに脚色も進んだ。さらに、ポカホンタスの記念の最初の動きかけは、1733年にイングランドのジェントルマンからボストンの友人に宛てた手紙であった。この手紙が意味していることは、送り主のイングランドの住人は各植民地の区別なしに「アメリカ人」と認識していた一方、バージニア植民地の住人は「イングランド人」としてのアイデンティティを持っていたのである。このように、ポカホンタス神話の起源はアメリカではなくヨーロッパにあり、18世紀大西洋世界の両岸の非対称性から醸成されたものだったのである。